

京都大学大学院教育学研究科主催E. フォーラム 2015年8月22日

# 「E.FORUMスタンダード」の改訂 に向けて(社会)

鋒山泰弘(追手門学院大学)

# 1. アメリカが広島に原子爆弾を投下した日付を正しく答えられない大学生は何パーセントくらいいるか？

・京都市内大学生468人を対象にした調査（毎日新聞、8月16日）

正しく答えられない→**25.9%**

・長崎への原爆投下の誤答→27.8%

・「終戦記念日」の誤答→26.7%

課題：**「知っておく価値がある諸事実」と「網羅主義の克服」の関係**

## 2. 戦争史学習の「本質的な問い」

- 「過去の戦争の史実から我々は何を学ぶべきか」(包括的)
- 「戦争はなぜ引き起こされるのか」(概念的)
- 「戦争は、どうすれば避けることができたか」
- 「戦争について異なる複数の解釈があることは、どのように説明できるか」「過去の戦争の解釈が政策決定者にあたえた影響をどのように説明できるか」(方法論・メタ認知的)

## (参考)

- 社会科：内容を網羅する必要がある。→単元を超えて理解してほしい内容は何か？
- 例「私たちは、ベトナム戦争からどんな教訓を学ぶべきだろう」
- ↓
- 「外国の地域的な摩擦に米国軍が関わったことから、私たちはどのような教訓を学び、また学んでいないのか」(ウィギンズ,G.・マクタイ,J.(西岡加名恵訳)『理解をもたらすカリキュラム設計』、日本標準、2012年(原著2015年)の例)

### 3. 「戦争の原因」についてどこまでの「理解」がスタンダード？

- たとえば、
- 「世界恐慌が発生し、欧米諸国が、植民地経済を巻き込んだ、経済のブロック化を進めると、日本経済は大きな打撃を受けました。その中で日本は、孤立感を深め、外交的、経済的な行き詰まりを、力の行使によって解決しようと試みました。国内の政治システムは、その歯止めたりえなかった。」
- (「戦後70年安倍晋三首相談話」から)

## 4. パフォーマンス評価の課題

- 課題①: 生徒にとって、「戦争の原因」を明らかにしたい、探究したい、説明したいという動機づけ・**問題意識が生まれるための文脈づくり**。
- 課題②: 教科書や教師によって、「定説」として要領よくまとめられた「戦争の原因」の記述を覚えて、**概略的に再生するというような学習とは異なる主体的・構成的な学習のための指導方法と評価基準(ルーブリック)の開発**。

## 5. 先行実践から考える

- 加藤公明『考える日本史2』
- 地歴社、1995年、199-240頁
- 第7章「だれのための国体護  
持か—平和の主体を育てる歴  
史の授業」

## 6. 問題提起と仮説形成

- ①「原爆の記録映画」を見た後に、「日本はなぜ原爆を投下させられたのか」についての仮説を生徒が立てる。
- ②「日本がポツダム宣言を受け入れなかったから原爆が投下された」という生徒の仮説を検討する。



## 7. 仮説検証のための史料の読み取り

- ③「なぜポツダム宣言を直ちに受諾しなかったのか」について考えるための史料として、太平洋戦争の戦況に関する資料と、1945年2月の近衛上奏文とそれに対する昭和天皇の回答の史料の読み取りを行う。
- ④東京大空襲と沖縄での戦争に関する資料の提示。生徒は降伏しなかったことと関連づけて悲惨な戦争被害の事実を解釈する。

## 8. (参考)

# ポツダム宣言についての事実的知識

(中学社会科教科書『新しい社会 歴史』東京書籍、平成23年版の本文より) →「1945年7月、連合国はポツダム宣言を発表し、日本に**無条件降伏を求めました**」

(中学社会科教科書『中学生の歴史』帝国書院、平成23年版の欄外のポツダム宣言の記述から) →

- ・「**日本国民をだまし、世界征服にのりだすといったあやまちをおかした者の権力と勢力は永久に取り除かなくてはならない**」
- ・「われらは、日本国政府が軍隊の無条件降伏を宣言することを求める。**これ以外の選択は急速で完全な壊滅があるだけである**」

## 9. 原爆投下とポツダム宣言を関連づけて考えることができる

「多くの生徒が原爆が落とされた後でポツダム宣言が発せられ、それを日本が受託して戦争が終わったと思っていた」

「しかも宣言の中に警告の文言が含まれていて、それを承知で日本が拒否したことは、今まで原爆の悲劇は一方的にアメリカが悪い、ないしは戦争中のことだから仕方がないと思っていた生徒たちにとって、彼らの認識を動揺させるに十分であった」(加藤1995:204頁)

# 10、再度の仮説構成と新たなデータの読み取り

- ⑤あらためて「広島・長崎の原爆の悲劇がなぜ起こったのか」について生徒に書かせる。国体護持の戦争であったことと原爆の悲劇を関連づけて、ほとんどの生徒は書く。
- ⑥「原爆が日本を降伏させた」という生徒の意見に対して、ソ連参戦についての資料の提示と読み取りをさせる。ソ連参戦と国体護持の関連について生徒は考える。
- ⑦原爆投下のアメリカ側の意図に関して検討するための、諸資料の紹介と読み取り。

## 11、深めるための問題提起と討論

- ⑧「一体どんな人がなんのために、国民の多大な犠牲にもかかわらず国体護持のための戦争を望んだと思うか」という問題提起を教師から行い、生徒に意見を書かせて、討論。

# 12. 学習のまとめ

## (パフォーマンス課題)

- ⑨この単元の学習を通して、「発見したものは何だったのか」「悲劇をふたたび繰り返さず、平和を維持し発展させるためには、どうしたらいいか」について生徒に自分の意見をまとめさせる。

# 13. 「個別的記述的知識」

## (資料2参照)

- (いつ、どこで、誰が、なにを、どのように)
- =「特定の事象に関する事実そのものを記述した知識」
- :例「アメリカは、8月6日に広島に、8月9日に長崎に原子爆弾を投下した」「広島では約14万人もの人が犠牲になり、長崎でも7万人を数える人が犠牲になった」(検定教科書の帝国書院『社会科中学生の歴史』平成23年、218-219頁の本文の記述をもとに作成)→事実認識にリアリティが伴っていないと、思考を促さない。

# 14. 「個別的説明的知識」

- (なぜか、何を目的に、どうなったか、等)
- =特定の事象に関する事実を解釈し、因果、目的・結果、特質、意義などを説明した知識
- :例「アメリカは、戦争の早期終結とともにソ連に対して優位にたつために原子爆弾を投下した」「日本は、天皇制が維持できることなどを理由に、ポツダム宣言を受け入れて降伏することを決めた」(検定教科書の帝国書院『社会科中学生の歴史』平成23年、218-219頁の本文の記述をもとに作成)



# 15. 「一般的概括・説明的知識」

- 「複数の事象に関する事実を解釈し、因果、目的・結果、特質、意義などを説明・概括した知識」

例「20世紀の戦争は、君主国が崩壊する革命を誘発し、民族運動を刺激して非植民地化の契機ともなった」(中谷臣『世界史論述練習帳』旺文社、2006年、131頁の記述から作成)

# 16. 「価値評価的・規範的知識」

- (よいか・悪いか、すべきか・すべきでないか、等)
- :例「国体護持なんていってないで、すぐに戦争をやめるべきだ」
- 「国民はもっと自分が主権者であることを自覚し、与えられた権限はすべて実行すべきだ」(加藤公明『考える日本史2』地歴社、1995年の討論授業における生徒の発言から作成)

# 17. 「メタ知識」

- 「知識や主張の背後にはどのような価値観や立場性があるのか、また、どのような手続き・方法によって導き出されたのかを吟味できるための知識」
- : 例「歴史の出来事の呼称には、歴史を書く人・語る人の解釈や価値観が含まれる。例えば、『大東亜戦争』という呼称には、欧米の植民地であった地域の解放を目指す戦争であったという解釈や価値観が含まれている」(成田龍一『戦後史入門』河出文庫、2015年、20-22頁を参照し作成)

# 18. 永続的理解

- 最初から着手するのは容易ではない。社会科の場合、まず生徒に獲得させたい「個別的記述的知識」「個別的説明的知識」をあげて、なぜそれらの知識を重要だと選んだのを検討し、そこから「一般的概括・説明的知識」と「メタ知識」のレベルの内容を具体化する作業に着手し、それらをふまえて単元を貫く「永続的理解」を文章化していく手順が進めやすい。

## 19. 戦争はなぜ起こるのか？

戦争とは、政府が領土問題や資源問題等、国家間で生じた紛争や対立を、外交的手段で解決できないと判断し、武力を行使して解決しようとすることから起こる。戦争の背景には国内が経済的・政治的に、閉塞感がただよう時などには、好戦的な世論が喚起され、政治家が戦争という手段に踏み切る要因となる。また、戦争によって経済的利益を受ける諸産業集団の圧力が存在することも要因となる。

## 20. 大学入試の「良問」から考える社会認識のスタンダード

- 生徒に習得させたい
- 「個別的説明的知識」
- 「一般的概括・説明的知識」
- の内容を明らかにする方法の一つに、歴史や政治・経済分野での大学入試の「良問」の検討がある。

# 21. 東京大学や一橋大学の 二次試験の問題

例：**資料3**（中谷臣『世界史論述練習帳』旺文社、2006年、130頁より）

- 第一次世界大戦と第二次世界大戦とは、20世紀の戦争として、それまでの歴史に見られなかったような特徴を備えている。二つの戦争を比較し、これらに共通する新しい性格と結果とを600字以内に論ぜよ。なお、解答文では下記の語句を少なくとも1回は使用し、最初に用いたときには下線をほどこせ。

## 22. 熟達者の「理解」から学ぶ

- 加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』2009年、朝日出版の冒頭で紹介されている
- アーネスト・メイ『歴史の教訓』1973年の命題。



「なぜこれほどまでにアメリカはベトナム戦争に介入し、泥沼にはまってしまったのか」

- ①外交政策形成者は、**歴史が教えたり予告したりしている**と自ら信じているものの**影響**を良く受ける。
- ②政策形成者は通常、**歴史を誤用**するということ。
- ③政策形成者は、そのつもりになれば、**歴史を選択して用いる**ことができる。